煌めく大地と月夜のはざま

銅山谷の産屋で生をうける

命、天と地の関係を考える

生まれること。
それは、だれも予想できない人生の幕開け。

生まれる場所。
今も昔も変わらず広がる喜びの空間。

「煌めく大地と月夜のはざま、東平地区」
を出産の場として選んだ家族があなたに贈る

いちばん最初の贈り物。

○私たちは何処からきて命をつないできたのか。

生命に対する向き合い方は社会構造の変化とともに変わり続けている。障がいによる命の選択、親が子を産み捨てる、自宅出産から病院出産という場所の変化…外圧や条件といったあらゆる要因によって状態が変化し続けている。

私たち人間は誰しも人から生まれてきたという事実は変わらない。

天があり地があることと同じくらい当然のこととされている今こそ、「命とは何か」、「地球に降り立った私たちは大地とどう繋がれてきたのか」という問いに向き合い、答えを探す地を提案したい。

○対象地

愛媛県新居浜市立川町

田別子銅山東平地区
―四阪島

銅山によって住友財閥が拠点とし、発展してきた。
現在は臨海工業地域として名残を残している。

○四国の成り立ちと金属資源が豊富な地質

海洋プレートが大陸プレート方向に向かって沈み、大陸に海底の堆積物が付けかわることで、四国の大地が形成された。プレートがぶつかった際に発生した力により、別子鉱床がうまれ、地球上でも稀に見る地上に近い鉱脈地として、姿が現れた。

○別子銅山

江戸時代に住友家によって開拓され、江戸当時の銅の輸出量の1/3を占めていた。採鉱が坑内深部に進むに従い、鉱況が悪化し、安い鉱石が輸入されるようになり、人は山を離れ、鉱物とその歴史を残す工作物を残し、1973年にその幕を閉じた。

Y：ミルフィーユ状になる四国の地層の軸

Y：海から山を結び、人々の生活をつなぐ軸

Z：空を結ぶ、地球を一緒につなぐ。空と大地を結ぶ軸